

RKM会報

Vol.13

2016年1月発行

編集・発行：RKM 幹事会事務局：桑水流正邦（くわするまさくに） 〒132-0035 東京都江戸川区平井 4-26-9 渡瀬方
メールアドレス：rkm634@rkm634.jp

年頭挨拶

RKM 会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。

昨年は、元旦バスケット、3月の代々木体育館でのイベント、6月の総会、9月のホームカミングデイに多くの方々がお集まり頂き、懇親を深めることが出来ました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

本年も、恒例のイベントに加え、2017年3月31日に予定している第二回代々木イベントに向けての準備を進めます。さらに会報の内容充実に取り組むとともに、お待たせしていたホームページを再開することとなりました。皆様からの情報発信をお願いするとともに、これらの活動を若手 OB が中心になって推進出来るように幹事団としても取り組んでいきます。

現役支援については、合宿時に若手 OB が練習相手になる

RKM 会長 36 期 久我 昭雄

他、中学生の基礎力強化のために、中学コーチを年配 OB が支援する試みを昨年より進めています。

さらに、日本 BB 協会の運営問題も一段落し、女子代表がリオ五輪出場を決定しましたが、この解決に RKM 関係者も尽力したことは喜ばしい限りです。

2022 (H34) 年に迎える学園創立 100 周年および 2027 (H39) 年の RKM 創設 100 周年に向けて、息切れすることなく着実に活動を進めていきます。

最後になりましたが、昨年も多くの方々からご寄付を頂き、健全な財政を維持することが出来ました。この場をかりてお礼申し上げます。今年も RKM 会員およびご家族にとって良い年となることを祈念しております。

元旦バスケット報告

今年の RKM も恒例の元旦バスケットで幕を開けました。

現役が午前中から掃除をしてくれたコートに午後 1 時前から集合。

正月とは思えない暖かさのなか、OB 29 名(78 期木本先生含む)、現役 20 名がバスケットを楽しみました。

最近では若手 OB の参加も増えてきており、41 期から 89 期までが参加し、予定の 15 時に中締めした後も若手を中心に 1 時間ほど汗を流しました。

出席者（敬称略）：

41 期 新津、畑、44 期 吉永、45 期 桂木、48 期 渋谷、高原、竹原、福本、49 期 石川、52 期 広木、58 期 金子、松本、62 期 小林、69 期 数間、本阿弥、80 期 石原、81 期 吉永、83 期 徳武、85 期 藤森、作山、石崎、87 期 高木、守田、88 期 浦、川田、戸田、89 期 斎藤、綾部

(87 期 守田 智洋 47 期 桑水流 正邦)



ホームカミングデイ報告 (2015年9月12日開催)

47期 桑水流 正邦



2015年9月12日(土)に同窓会主催のホームカミングデイ(HCD)が開催されました。RKMも14時に体育館に集合、OB同士の懇親および現役との交流試合を2時間タップリ楽しみ、16:30からは高中図書館棟での各サークル合同懇親会に参加しました。

恒例のフリースロー大会のOBの部では、優勝：87期高木さん、2位：32期佐室さん、3位：54期山田さんの結果でした。例年図書カードを賞品として贈呈していますが、今回は38期齊藤斗志二さんよりご寄付頂いた受章祝いのクオカードを贈呈させて頂きました。

試合後には、36期久我会長、32期印南さん、同佐室さんから現役へアドバイスして頂きました。

また、44期柳生さんが取り組んでいる、2015年4月に巨大地震に襲われたネパールの回生を願う寄付活動の紹介もありました。

最近では、現役と同等に動ける若手OBの参加も増えてきており、現役にも良い刺激となっていると思われます。

出席者(敬称略)：

32期印南、同佐室、36期久我、41期落、同新津、同畑、44期茂木、同柳生、同吉永、47期桑水流、48期竹原、54期今田、同長谷川、同松原、同山田、61期桑田、78期木本、87期高木



29期 秋田インターハイ優勝チームの特徴

われわれのチームは昭和29年(1954年)には2月の東京都新人大会から8月の全日本高校選手権まで年間を通じて高校生チーム相手には一試合も負けずに終わることが出来た。その戦績を挙げられた要因はいろいろあって、全部書くには何倍かの紙面が必要なので、ここでは現役の諸君には是非参考として貰いたい2点だけをお伝えする。なお、すべて畑先生の直接・間接の指導によることは言うまでも無い。

1. ディフェンスのチーム

優勝したインターハイ決勝戦のスコアは43対38、当時でもロースコアであった。双方がミスを合せて点数を挙げられなかったわけではない。ただし、ボールを保持してから何秒以内にシュートしなければならないといった規制は無く、ミスしなければシュートするまで何秒(分)でもボールを保持できた。双方とも精一杯攻めあって凡ミスの少ない緊迫状態が続いて、見ている人たちが手に汗握っていたと思う。決勝の相手三条高校(新潟)ほどの大会でも2、3回戦あたりでは100点ゲーム。当時は8分クォーター、正味32分だから、翌日の新聞見て、なんと恐ろしいチームだ、と。わがチームの得点能力は2回戦あたりでも70点程度以内。マンツーマン、ゾーンどちらも使ったが、相手をロースコアに抑えて勝つのが常態だった。都の大会でも100点を目指したことは無かったが、シャットアウトを目指した試合はあった。成功しなかったが。

プレスディフェンスに強い自信を持っていた。当時既にプレスディフェンスは珍しくは無かったが、どのチームも負け試合の終盤にどんでん返しを狙って、ろくに練習してないのに苦し紛れにやるということが普通だった。体力的に考えれば短時間に限ら

れた特殊な戦術という考えが一般的だった。わがチームは2年生の秋ごろから有力な戦術とすべく周到に訓練を重ねていた。この試合でも計画通りに残り約3分からゾーンプレスを仕掛けて相手のミスを誘い、突き放しに成功した。これも普通のディフェンスが強いという下地があった上に練習を重ねたからこそであったと思っている。

当時、計画的なプレスディフェンスは女子チーム(高校、実業団のごく一部)で先行していたが、普及したのは数年後からだった。武蔵ではわれわれの後も続いてプレスディフェンスが有力な武器となり、特に32期のチームが全試合フル・ゲームのプレスディフェンスで高校選手権優勝したことが大きな影響を与えた。彼らのプレスディフェンスは圧倒的で見事だった。

プレスディフェンスは体格・体力・運動能力で劣勢のチームが、こちらは練習でその能力を最大限に向上させ、相手には練習していないプレーを強いて得意技を出させない、つまり闘う前の優劣関係を試合の中では極力小さくする戦略として考えられた。「努力」には先天的な優劣は無いと考えている。

2. いつも考えながらやっていた

体力(持久力、瞬発力)、体格(身長、骨格、筋肉など)、走力(速さ、跳躍力)のいずれをとっても平均以下、これらについて特に優れた選手は一人もいなかった。

練習のときから常に考えながらプレーしていた。相手の様子を見ながら、オフェンス、ディフェンスとも相手がやりにくいであろう、練習していないであろうことを強いるように心掛けた。味方に対しては、誰が何をしようと考えているかを考えてプレーし



↑高松宮杯を受ける川浪主将。

←戦後初の全国制覇を遂げる。

た。パスひとつにしてもレシーバーが受け取りながら相手を攻める、シュートするなど次の動作がしやすいタイミングでしやすいところへボールを正確に送ることに全力を集中させた。

畑先生からは「考えながらプレーしろ」とは一度も言われなかったが、練習で一つ一つのドリル、動作を「こうゆう目的で」「こうゆう狙いで」「だから、こうゆうやり方で」と指導されたので、何をやるにしても自然といつも考えながらやることになっていったと思う。

また練習中に限らず、普段の接触が濃密で互いに何でも言い合ったことから誰が何を考えているかを、その表情や身体の動かし方からも良く理解し合うことが出来た。特に合宿中はミーティングなどコート上以外でもそのことが涵養・増進されて意思疎通が自然とうまくいくようになったと思われる。

これらのことが体力、体格、走力で明らかにハンデを負っていた相手にも負けなかった最大の要因だったと思っている。

現役諸君も「このことは他校の選手に負けない」という強みを作ることを考えて、チームとしてこれを生かし強化するような良い練習やミーティングをやって意義ある部活動としてもらいたい。

(29期 川浪 茂男)

39期 中学時代の思い出

《はじめに》

・胸を張ることの出来ない39期です。中学では同期が6人でしたが、RKMを全うしたのは、宇田川徹也だけでした。本稿執筆に最適任の同君が、平成21年5月に亡くなったことは、大変残念であります。

昭和37年 (36年7月~37年6月)
高3 吉沢, 多田, 林, 石井, 宮本, 岩崎
高2 菊田, 竹林, 斉藤, 三木, 鈴木
高1 宇田川, 会田, 吉沢
☆関東大会 (37年6月八王子)
1回戦 49 $\begin{matrix} 28-23 \\ 21-29 \end{matrix}$ 52 市川高
1回戦の相手は190cm, 180cm 台の選手を有する市川高校だった。試合前の練習で我々がコートに出た時、周囲から笑いすら起った。どうみても武蔵の外観は相手と比較して中学生程度にしか見えなかったからだ。しかし、試合は前半武蔵のリードで終了した。これは観客には驚きだったらしい。そして我々に対する声援が圧倒的であった。
しかし、後半ジリジリと追い上げられ、我々に5ファウルも続出し、とうとう惜敗した。「武蔵はどうして、こう小さい人ばかり集めるんですかね……。」と聞かれたことが妙に印象に残っている。一見皮肉に聞えたこの言葉が、「小さくても強い武蔵」そんな風に聞えた。

・高校1年の1学期で退部してしまい、資格も記憶もない私に、中学時代について、断片的に書かせていただきます。

・ただただ、ボールと格闘し、追いかけていた程度が中学チームの特徴だったと思います。そのため、「チームの属性について」は記載出来ません。お許し下さい。

《雰囲気》

・運動部は上下関係が厳しいと覚悟していたところ、全く異なり、上級

生にも高校生にも臆することなく、接することが出来ました。高校の極く短期間在籍した私と会田正人君も会員にしていただけの寛容さもあります。この素晴らしい伝統は、半世紀以上たっても、不変であると思います。

《練習》

- ・当時、他校では、水は厳禁でありうさぎ跳びは必須でしたが、RKMは違いました。先進的な練習方法でありましたが、バスケットシューズの紐より細い水をなめるのには苦勞しました。
- ・時たま、お茶大附属高校と合同練習をしていましたが、心ときめくものでした。

《合宿》

- ・高校の合宿に、3回参加させてもらいました。残雪の金沢城内の大学体育館で練習。夏草茫々の須坂の寺で宿泊。春の海に面する某社沼津寮で焼き焼の夕食。
- ・早朝、窓ガラスが静かにコツコツと長時間叩かれます。皆が自発的に起きるのを、畑公がじっくりと待っていてくれたのです。
- ・夜、通称「吊し上げ」と呼ばれていた反省会が実施されます。皆が車座になって、ある人に対し、当日の練習について、要改善点の感想を順次述べます。これを全員分長時間やるので、コックリしたこともありました。現代でも、スポーツに限らず、この方式を活用出来る機会は多いと思います。

《畑公》

- ・中学の練習にも時々来て、新しいフォーメーションもよく教えてくれました。
- ・オリンピック等の審判、全日本チームのコーチ、また、テレビ講座の監修、放映試合の解説なども務められ、偉大な指導者と尊敬していました。そのためもあってか、『攻撃は最大の防御なり』は、相当長い間、畑公語録のひとつと信じ込んでいました。

(39期 古澤英明)

49期 へばったら、がんばっています!

49期のメンバーは、各々下記分野で第4Q奮闘中です。国民の権利を守るため日夜、鋭い切り口で真実の見極めに取り組む者、仕事とミニバス指導の両立にストイックに取り組む工業系技術者、創薬と食の安全・安心を追求する研究会社役員、著名な医学博士(診断病理学)、元全日本女子センタープレーヤーを秘書に配するガス会社代表、時代の先端を切り開くIT企業役員、と多方面でへばったら、がんばっています。

集まる努力も重ねています。前号「10期毎寄稿特集」にてご紹介がありました47・48・49の最大行事である畑公墓掃除ツアーを始め、当初は分科会活動であったゴルフ会がいつの間にか公式コンペに、日帰行事は1泊にと、格上げ開催が連



49期メンバー（左より）：黒田、遠藤、吉田、鱈淵、野口、石川、(畑公)

続していますが、「集まる努力」は「いい癖」として定着していますので、人数不足で催行中止となったことはありません。

また、著名な医学博士は本会に巻き込まれゴルフを始めたのですが、皆勤に近い出席です。今や海外出張時には、現地の博士たちといかに世界の医学の進化を牽引するかをラウンド中もディスカスとこと、集まる努力を続ければ、何かの創造につながることを証明してくれています。

「Tディフェンス」に関する逸話です。上記行事は47期の名古屋の会長と48期の幹事の牽引の下、拡充、継続しておりますが、皆それなりの要職に就き、時間的制約も多い中、気が付くと49期のビジュアル系担当が、極めて自然に切符の手配をしてくれるようになりました。現役中、一番ディフェンスに興味を示さなかった人物であったのですが、やはり畑公の教えは染み込んでいたんだな、というお話です。

メンバー全員のエピソードをご紹介したいのですが、誌面の都合もあり、故秋山君の話で締めさせていただきます。彼の本業は水球ゴールキーパーでユニバシアードの日本代表選手でしたが、可能な限り二足の草鞋を履いていました。日本最大の鉄道会社に勤務し、誰よりも早く役員就任、誰もが将来の活躍を期待しておりましたが、病の為、鬼籍入りしました。本年12/5に開催した47・48・49の偲ぶ会は3回目を迎えました。

我々世代は、RKMメンバー世代間の架け橋役割を担うべき年齢層にあることを認識し、今後もRKM活動に参画していく所存です。

(49期 吉田 正俊)

59期 2つの景色～現役時代を振り返って

東京都ベスト16をかけた高校3年生のインターハイ予選を終えた時、心の中に虚脱感と達成感の2つがあったことを覚えています。虚脱感を抱いたのはもちろん負けたためです。我々59期は高校2年生の時、ベスト16に進出しました。最高学年となり、それを上回る戦績を残そうと努力してきたのに果たせませんでした。一方の達成感は、「あの弱小チームがよくここまで伸びたな…」という思いからくるものでした。

中学時代のチームは酷いものでした。バスケットボール選手として国体出場経験もあった小学校の担任の「武蔵には畑先生という有名な方がいる」という一言で中学受験の志望校を決めた小生がまず驚いたのは、練習にコーチがいなかったことです。当然、練習はいいかげんで、途中で切り上げることもしばしば。試合に勝てるはずもありません。中学2年生になって、OBの集団指導体制が始まり、少しは「らしく」なったものの、練馬区大会で1度か2度、勝利する程度でした。「どこが名門なんだ」と思ったものです。

しかし高校に上がり、身長の高い経験者が加入したことでチームは大きく変わりました。58期にも180cmを超える先輩がいたこともあり、身体能力で他チームに見劣りすることはなくなりました。

当時、慶應義塾大学のコーチを兼務していたため練習を留守にしがちだった畑公も面白いと思うようになったのでしょうか。我々が高校1年生の途中からは欠かさず練習に顔を出すようになりました。授業が終わって体育館に向かうと、玄関前にあの自転車が置いてある。「また来ているよ」とみんなで顔をしかめたものです。練習時間も長くなり、午後3時半から7時半ごろまで続けました。

おかげで勝ち癖が付くようになりましたが、辟易としたこともありました。チームに興味を持った畑公が湯水のごとく新しいプレー、練習法を着想してしまうのです。あるフォーメーションが習熟しないまま、次のフォーメーションの練習が始まることしばしばでした。籠球道を究めようという思いが勝利に勝っているのではと勘繰ることすらありました。

RKMの伝統なのでしょう。肩を抱き合って泣いたり、チームのありようを巡って喧嘩をしたりといったスポ根ドラマにありがちな思い出がほとんどありません。それなのに、ほとんどが途中で辞めることなく、最後まで続けた不思議な学年でした。弱小チームの経験があったからこそ、勝つことの楽しさを人並み以上に感じていた仲間だったのかもしれない。

(59期 秋場 大輔)



(59期が高二の時のインターハイ予選、1983年6月19日)

後列（左より）：59中井、59池田、59吉岡、59秋山、59武田。中列（左より）：59矢作、畑公、59矢田、59中山、59飯塚、59大橋、59秋場、59鳥越、59桃原、前列（左より）：58小川、58松本、58金子、58阪井

RKM アーカイブ通信

(RKM アーカイブ・プロジェクトより)

1. ホームページ立ち上げのご報告

前報でホームページ(以下 HP)の構成案をご紹介しましたが、このたび、あらためて HP を立ち上げました。ぜひアクセスしてみてください。

URL : <http://rkm634-jp.sakura.ne.jp/>



2. 一般公開ページの構成

だれでもアクセスできる、一般に公開しているページは、「TOP」以下、このような構成となっています。

- ・「TOP」・・・下記 TOPICS への掲載記事が、1 行程度でダイジェスト表示されます。
- ・「TOPICS」・・・総会のご案内、会報発行のお知らせ、会費振込みのお願い、期毎の話題紹介のコーナーです。(例えば、ゴルフ会や新年会などの開催案内やその様子などを掲載するイメージです)
- ・「RKM とは」・・・RKM の説明、事務局連絡先などを掲載しています。
- ・「会報誌」・・・会報誌のバックナンバーを順次アップロードしていきます。

3. 「会員ページ」の構成

- ・「会員ページ」は RKM 会員限定ページです。トップページより、「会員ページ」をクリックしてください。なお、アクセスするにはパスワードが必要です。

ログインパスワード

ログイン後の構成は以下になっています

- ・「TOP」・・・お知らせなどを掲載しています。
- ・「会員ページへようこそ」・・・下記 4. でもお願いしていますが、各期からの資料提供を呼びかけています。
- ・「会員紹介」・・・各期の集合写真をはじめ、期の戦績、プレーヤーの紹介などを掲載してきます。
- ・「畑公アーカイブス」・・・畑先生が遺した文書、雑誌記事などを掲載していきます。



4. 資料提供のお願い (前号の再掲)

1. RKM 幹事会では RKM 関連の資料を集めています。皆さんがご持ちの資料を提供してください。現役の頃の練習日誌や新聞・雑誌記事、写真などの資料をデジタル化し、アーカイブを構築していきます。

お借りした資料は処理が済み次第お返しいたします。「RKM100 年史」の編纂を待たずに整理のできたものから順次 HP に掲載し、会員の皆さんに閲覧していただくことを考えております。

2. 幹事会およびアーカイブ・プロジェクトチームとしては、来年の RKM90 周年までに「RKM100 年史」の基礎資料のひとつとして「期毎の集合写真」を収集することを目標としています。これについては、「現役時のユニフォーム姿」というのがベストではありますが、撮影時期は問わずにまずメンバー全員が映った映像を収集するというようにしたいと思います。皆さんのご協力をお願いいたします。

※送付先: HP 事務局 (RKM 事務局と同じ)

○メール: rkm634@rkm634.jp

○郵便: 〒132-0005 江戸川区平井 4-26-9 渡瀬方 桑水流 正邦



ゴルフ会のお知らせ

2015年秋の大会は10月28日(水)、嵐山カントリークラブにて絶好のゴルフ日和のもとで開催されました。

お茶の水OG4名を含む24名が参加。新ペリア方式の結果、優勝お茶の水OG安原さん、2位32期佐室さん、3位32期(RKM 応援団)小林重晴さんでした。

私は初参加で大先輩と同じ組で緊張したスタートでしたが、天気とパートナーに恵まれ個人的には満足できるスコアでした。

次回2016年春の大会は3月23日(水)に千葉県・浜野ゴルフクラブにて開催予定です。平日開催ですが奮ってご参加下さい。詳細は別途36期鹿子木雅さんから案内して頂きます。

(47期 桑水流 正邦)

次回総会および代々木イベント案内

次回のRKM総会は、2016(H28)年6月7日(火)18:30～20:30、日本教育会館(最寄駅「神保町」竹橋)にて開催予定です。5月上旬に案内を郵送致しますが、皆様お誘い合わせの上、是非ご出席ください。

また、2017(H29)年3月31日には、第二回代々木イベントを開催すべく体育館を予約しました。詳細はこれから検討しますが、こちらもご予定下さい。

編集後記

- ・メンバーのご家族にお願いしてやっとHPを再開することが出来ました。会報・HP・MLの三本立てで活動を強化していきます。(47期 桑水流)
- ・HPとアーカイブプロジェクトを、密接につなげていきたいと考えています(61期 桑田)